

配合飼料飼育によるシラヒゲウニの生殖巣処理試験

佐多 忠夫

目 的

配合飼料によって寒冷期に飼育されたシラヒゲウニの生殖巣が従来に行われている方法によって処理された後、食用として利用できるかどうかの検討をする。

方 法

1991年1月10日に恩納村の海域より採集されたシラヒゲウニ371個体は、市販の配合飼料（日本農産ウニ2号）により、室内の3トン水槽（3m×1.43m×.87m）で飼育された。1991年4月25日（105日目）に生き残っていた11個体について、ミョウバン溶液で処理した生殖巣の食感テストを5名で行った。

処理方法

1. 殻径、殻高、体重、生殖腺重量、粒、色等を計測する。
2. 生殖腺を取り出し、海水に入れ付着しているゴミ、汚れ等を取り除く。
3. ミョウバン溶液(海水3：淡水1の溶液にミョウバン入れ2.5%溶液とする)に10-20分間漬ける。
4. 生殖巣を溶液から取り出し、清潔なガーゼの上にならべ、乾かす。

結果及び考察

供試したシラヒゲウニの計測状況を表1に示した。殻径は68.5-77.8mmの範囲で平均は72.9mmであり、体重は100.9-165.0gの範囲で平均は140.7gであり、生殖腺重量は0.37-1.83gの範囲で平均は2.63gであり、生殖腺指数が0.37-6.01の範囲で平均1.83であった。

表-1. シラヒゲウニの計測状況

年月日	経過 日数	殻径 (mm)	殻高 (mm)	体重 (g)	殻重 (g)	生殖腺 重量(g)	生殖腺 指数	粒	色
910425	105	71.2	47.0	136.3	45.4	0.5	0.37	見えない	黒茶
910425	105	74.9	40.7	159.7	62.7	9.6	6.01	やっと見える	黄銅
910425	105	77.0	44.4	155.8	46.9	2.4	1.54	見えない	黒茶
910425	105	73.9	45.7	160.6	63.3	2.2	1.37	やっと見える	黄銅
910425	105	68.5	30.9	105.1	39.1	1.5	1.43	やっと見える	黄銅
910425	105	68.5	43.4	119.8	43.2	2.0	1.67	見えない	黒茶
910425	105	73.9	49.2	165.0	66.7	3.7	2.24	見える	茶
910425	105	69.4	41.3	125.6	53.8	2.7	2.15	やっと見える	茶
910425	105	77.5	39.3	148.2	41.5	1.9	1.28	見えない	黒茶
910425	105	68.9	36.0	100.9	50.8	1.7	1.68	見えない	黒茶
910425	105	77.8	43.5	161.9	30.3	0.7	0.43	見えない	黒茶

$$\text{生殖腺指数} = (\text{生殖腺重量} / \text{体重}) \times 100$$

これらのサンプルを5名に試食してもらった。すると、4名は生殖巣の見た目が悪く（色が黒っぽく）まったく口にする事ができないと言い、試食しなかった。残り1名によると、11個を全て試食したが、全て口当たりが悪く、シラヒゲウニのとろける様な食感がまったくなかった。

このように5名のうち4名が生殖巣をみただけでまったく口にする気がしない、そして、1名が口にするが食感が非常に悪いと感じたことからすると、今回試験に利用した配合飼料飼育によるシラヒゲウニの生殖巣は製品として使用することができないといえる。

通常製品としているシラヒゲウニは生殖指数がピーク時には10以上にもなる。今回使用した生殖巣は生殖指数が平均1.83とかなり低く、製品として使用するにはあまりにも未熟な状態の生殖巣であったために、悪い状態のものできたと考えられる。配合飼料飼育によってできた生殖巣もやはり、生殖巣そのものがよい状態でないと、食用とはなり得ない。

参考文献

- 佐多忠夫・1992. 配合飼料によるシラヒゲウニの見入り試験。「平成2年度沖水試事業報告書」。
(印刷中)